

平成 19 年 9 月 28 日

北アルプス広域連合長
牛越 徹 殿

白馬村新ごみ処理施設を考える会
会長 宮田 温巳

候補地・飯森の「予備調査」に反対する意見書

私ども「白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会」は、北アルプス広域連合長に対して、下記のとおり「予備調査」に反対する意見を表明します。

この意見を真摯に受けとめ、方針の転換を速やかに実行されることを熱望します。

記

1. 「活断層から 50m 離せば安全」という説明は崩壊している

活断層が“飯森地区”の直近にあるのは文献でも明記されていますし、広域連合の「ごみ処理施設用地選定調査報告書」でも、“不確か”としながらも存在を認めています。信州大学副学長小坂共栄教授の現地調査でもその存在が確認されています。小坂教授は講演で「(候補地飯森は) 公共施設の建設候補地に選ぶような場所ではない」と明言しています。

さらに、中越沖地震での被害状況、特に柏崎刈羽原子力発電所の事故状況をみれば、活断層付近に事故発生のリスクを負う施設を建設することの愚は明白です。

2. 「予備調査」の費用は高額で税金の無駄遣いである

活断層の位置を明確にするための調査となれば、単なる地質調査のためのボーリング調査では済まず、地面を掘っての調査となると思われ、費用は高額となるはずで、活断層から 50 m 離すために、高額の費用を支出するのは税金の無駄遣いです。建設候補地が 18 カ所あるのですから、活断層から離れたより安全な候補地を選定すべきです。

3. 「飯森地区」は、真っ先に除外すべき場所である

広域連合は、「飯森地区」は決定ではないとたびたび明言しています。太田村長は、「飯森は単なる候補地の一つに過ぎない」と言ったことがあります。それならば用地選定の候補地 18 カ所について予備調査をするのが筋です。

用地選定における一次選定の基本「防災面で施設建設が望ましくない地域は候補地より除外する」という手順に戻り、18 カ所の候補地について専門家による文献調査と現地調査を行って、防災面の配慮から不適切な地区を除外すべきです。そうすれば、飯森は真っ先に除外対象になります。

以上の 3 点が予備調査に反対する理由です。なお、予備調査をすれば、明白に不可となるの

で予備調査を認めてもいいのではないか”と考える立場の人たちがいることは十分承知していますが、私どもは、この予備調査の実質が、建設候補地として“住民の同意を得てから行う”としている地質調査を含む「環境影響調査」に相当し、これを認めることは、建設候補地として“飯森地区”を認めたことになると考えています。

この点からも「飯森地区」への建設を前提にした予備調査は許容できません。

以上